

授業科目名 (英文名)	スポーツ経済論a (経済学部・専門教育科目) (Sports Economics a)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	伊藤 克広	所属	経済学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>< 講義目的 > 世界共通文化であり、国際共通語である運動・スポーツについて、社会科学の視点よりとらえ、考察・議論する。</p> <p>< 到達目標 > 現在社会の中で起こっている運動・スポーツ、健康に関するさまざまな事象、現象に対し、興味・関心、疑問を持ち、自らに問いかけ、考え、探求していく。</p>		
講義内容・授業計画	<p>< 講義内容 > 2019年ラグビー・ワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2021年ワールド・マスターズ・ゲームス関西、といったメガ・スポーツイベントが3年連続で開催される。このようなメガ・スポーツ・イベントが3年続けて開催されることはかつてないことであり、世界初である。これはゴールデン・スポーツ・イヤーズ (GSY) と呼ばれ、今後の日本のスポーツ界のみならず社会、経済、政治、生活に対して大きな影響を与えていくことが推察される。 スポーツは世界中のどこでも、誰とでも、いつでも行うことができることから「国際共通語」、「世界共通文化」と言われ、グローバル社会においては必須科目とされている。こうしたことから、スポーツについて学習することは非常に重要かつ必要なことである。 本講義では、スポーツとは一体何なのか、スポーツ関連政策、スポーツの効果、スポーツと産業といった内容に触れながら、現代社会において運動・スポーツ、健康はいかなる意味・意義があるのか、運動・スポーツ、健康と経済活動との関わり等について社会科学の視点より考察・議論していく。主な内容は以下のとおりである。</p> <p>< 授業計画 > 1. スポーツの歴史：人類とスポーツ 2. 文化としてのスポーツ：「文化部」と「運動部」？ 3. スポーツ基本法とスポーツ基本計画：国のスポーツ・マスタープラン 4. 地方自治体におけるスポーツ推進：地域のスポーツ政策 5. スポーツ・イベントとレガシー：スポーツ・イベント開催後、何が残る？何を残す？ 6. スポーツのインパクト（効果）：社会効果、個人効果、経済効果 7. スポーツ産業・ビジネス：スポーツメーカー、プロ・スポーツ 8. スポーツ・マーケティング：マーケティングとスポーツの融合 9. スポーツ・マネジメント：マネジメントとスポーツの融合 10. スポーツとメディア：スポーツはキラコンテンツか？ 11. スポーツと組織：スポーツには組織が必要 12. スポーツクラブ：チームとクラブ 13. スポーツにおける消費：スポーツにおける個人消費 14. スポーツとボランティア：スポーツ・ボランティアの優勢 15. 健康とスポーツ：スポーツをすると健康になるか？</p>		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	<p>マイケル・A・リーズ、ピーター・フォン・アルメン「スポーツの経済学」中央経済社 日本スポーツ法学会編「詳解 スポーツ基本法」成文堂 菊幸一他編「スポーツ政策論」成文堂 諏訪信夫他編「スポーツ政策の現代的課題」日本評論社 池田勝編著「生涯スポーツの社会経済学」杏林書院 山口泰雄「健康・スポーツへの招待」体育施設出版 間野義之「奇跡の3年2019・2020・2021ゴールデン・スポーツイヤーズが地方を変</p>		

	<p>える」徳間書店 間野義之「オリンピック・レガシー：2020年東京をこう変える！」ポプラ社 小林勉「地域活性化のポリテクススポーツによる地域構想の現実」中央大学学術図書 原田宗彦他「スポーツ産業論第5版」杏林書院 友添秀則「スポーツのいまを考える」創文企画 平田竹男「スポーツビジネス最強の教科書」東洋経済 宮田由紀夫「暴走するアメリカ大学スポーツの経済学」 Michael Leeds & Peter von Allmen 「The Economics of Sports」 Sandra Spickard Prettyman & Brian Lampman 「Learning Culture through Sports」</p>
成績評価の基準・方法	<p>授業時間に実施する小レポートおよび小テスト（35%）、平常点（積極的な質問，発言等）（15%）、最終レポート（50%）によって総合的に評価する。</p>
履修上の注意・履修要件	<p>最終レポートの提出のみで単位取得は不可能であるので注意すること。</p>
実践的教育	<p>該当しない</p>
備考	